

甲 第 号

岡本 愛 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	齋藤 康彦
論文審査担当者	委員	教授	田中 利洋
	委員(指導教員)	教授	中瀬 裕之

主論文

Prevalence and Clinical Impact of Cervical Facet Joint Degeneration on Degenerative Cervical Myelopathy: A Novel Computed Tomography Classification Study

頸椎症性脊髄症における椎間関節変性の有病率と臨床的影響：CT 新分類での検討

Ai Okamoto, Yasuhiro Takeshima, Shohei Yokoyama, Fumihiko Nishimura, Ichiro

Nakagawa, Young-Soo Park, Hiroyuki Nakase

Neurospine 2022;19(2):393-401, doi: <https://doi.org/10.14245/ns.2143258.629>

論文審査の要旨

頸椎症性脊髄症は、加齢による脊椎の変性が原因で神経障害を引き起こす疾患で、高頻度に見られる疾患である。本研究は、頸椎椎間関節の変性に着目し、独自に修正した頸椎椎間関節変性の CT 分類を用いて、その特徴と有病率、脊髄症責任障害高位との関係、頸椎すべりとの関係、脊髄症急速進行との関係について検討した。その結果、関節面びらんや脊髄症急速進行例や責任障害高位に有意に多いが、頸椎すべりは脊髄症への症状進行とは関係がないことが明らかになった。さらに、CT 分類の 2 検者間の κ 係数を算出し再現性が高いことも示された。これまで頸椎椎間関節変性と脊髄症との関係を示した報告は無いことから、本研究成果は脊髄症の責任障害高位診断の一助となり、さらには、早期外科介入の指標となりうる重要な知見となりうる。

公聴会では、「CT の適応症例とその結果から導かせれる診療のフローについて」の質問に対して、比較的軽症の症例で CT 検査を施行し、びらんの所見が責任障害高位であれば積極的に手術を勧める、との回答があり、「臨床への役立て方」に関する質問に対しては、今回の CT 分類を用いて脊髄症への急速進行への可能性を逃さず、医師が自信をもって手術を進めるのに役立つことができる、との回答があった。さらに、「CT と MRI との違い」に関する知識を問う質問については適切な回答がなされ、十分な知識を身に付けていることが明らかになった。

以上より、主論文は博士課程の学位論文としてふさわしいものであり、申請者は博士の学位を授与するのに十分なレベルに達していると考えられる。

参 考 論 文

1. Unilateral Degenerative Facet Joint Pathology Eliciting Rapidly Progressive Cervical Spondylotic Myelopathy.
Yasuhiro Takeshima, Ai Okamoto, Shohei Yokoyama, Ichiro Nakagawa, Hiroyuki Nakase. *Cureus* 2021;13(4):e14238, doi:10.7759/cureus.14238
2. Reply Letter to “Cervical Facet Joint Degeneration”
Yasuhiro Takeshima, Ai Okamoto, Shohei Yokoyama, Fumihiko Nishimura, Ichiro Nakagawa, Young-Soo Park, Hiroyuki Nakase. *Neurospine* 2022;19(3):851-852, doi: <https://doi.org/10.14245/ns.2244654.327>
3. Endovascular vertebral artery orifice angioplasty for the prevention of acute ischemic stroke following vertebral artery stump syndrome.
Ai Okamoto, Ichiro Nakagawa, Masashi Kotsugi, Shohei Yokoyama, Shuichi Yamada, Young-Soo Park, Hiroyuki Nakase. *Surgical Neurology International* 2022; 13(382):1-4, doi:10.25259/SNI_515_2022

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに脳神経機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和5年3月7日

学位審査委員長

脳神経生理学

教授 齋藤 康彦

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教授 田中 利洋

学位審査委員(指導教員)

脳神経機能制御医学

教授 中瀬 裕之